

広島県公立高校入試選抜Ⅱ分析速報(国語)

□問題・設問構成

見た目の4大問構成は変わらず。

大問1が小説、大問2が説明文、大問3に古典、大問4に資料読み取りからの作文。昨年と変わらない構成となりました。漢字が1問増えましたが、傾向も基本的に昨年と変化ありませんでした。

□昨年度との難易度比較

難易度は昨年並み。上位と下位の差が広がる可能性。

小説の題材が「志賀直哉」で明治時代の内容、さらには「生徒との会話」という「難しい形式」が維持されました。また、全体的に文章が長く、読むのが大変です。難易度は昨年並みとみるべきでしょう。ただし、国語が苦手な生徒にとっては苦しい問題なので、平均点は昨年の25.6点よりもやや下がると考えられます。

□平成30年度入試に向けて“今すぐ行う”対策

作文を書く練習をきちんと積む

結局、全体の配点の2割を占める作文の出来が、国語の得点を左右します。資料を見てわかること・自分の考えを書く訓練は、普段からきちんと積んでおくべきでしょう。どの教科の、どの単元よりも時間がかかるところです。これから逃げてしまうと、国語の点数は取れません。例えば、週に1回は必ず書くと決めておけば、国語の入試はもとより、選抜Ⅰにも好影響です。

広島県公立高校入試選抜Ⅱ分析速報(社会)

□問題・設問構成

4大問構成は変わらず。資料を読み取るタイプの問題が増加。

大問1が地理の問題、大問2が歴史の問題、大問3に公民の問題、大問4にテーマを決めた総合問題の4題構成と、こちらも昨年とほとんど変わらない問題構成になりました。昨年と同じくグラフや資料が多く登場し、これを読み解いて解答する“社会らしくない”記述問題が多く存在していました。

□昨年度との難易度比較

昨年とほぼ同等の難易度。

昨年と同様の難易度で、記述練習の足りない受験生に厳しいテストになっています。ただし、昨年までの積み重ねで今年の受験生はきっちり準備してきたと思われ、また知識寄りの記述問題が多いので、平均点は多少の上昇と見てよいでしょう。昨年の21.6点から3点程度のプラスと考えられます。

□平成30年度入試に向けて“今すぐ行う”対策

簡単な記述問題は今すぐ書けるような練習を

最近、社会の問題は「単純な用語暗記」では得点が取れないようになってきました。もちろん、用語の暗記はすべての基本ですので、引き続いてやっておかなければなりません。それ以上に大切なのは「簡単な記述問題」を得点していくこと。「記述問題」とクローズアップすると、難しいように感じるかもしれませんが、実は本当に難しいのは資料を読み取りながら説明していく問題です。記述問題には、ただ覚えれば解けるタイプの問題もあるのです。ですから、そのような問題を解くことをオススメします。

広島県公立高校入試選抜 II 分析速報(数学)

□問題・設問構成

大問構成が今年も変更。計算問題が減って記述問題が増える。

大問 1 が計算と小問集合、大問 2 に小問集合が入りました。大問 3 に文章題と説明問題が入りました。大問 4 が図形の活用系の問題、大問 5 が関数の活用系問題、大問 6 に関数のグラフ応用問題、大問 7 に図形の証明問題が出題されました。計算問題がさらに減って 3 問となり、その分選択問題が増えました。

□昨年度との難易度比較

難易度は昨年よりやや難しい。前半の 3 題で明暗分かれる可能性

昨年と少し形式が変わりましたが、今年は前半の 3 つの大問の難易度が昨年より下がり、一方で大問 4・5 の難易度がどんと上がりました。時間配分に失敗すると得点が取れないでしょう。平均点は昨年の 24.8 点よりとほぼ同じと予想します。ただし、いわゆる進学校の場合は高得点勝負になる可能性があります。

□平成 30 年度入試に向けて“今すぐ行う”対策

計算と一問一答が大事

昨年同様、記述・活用系の問題が採用されて、目はいやでもそちらに向くことでしょう。しかし、先ほども書いた通り、差がつくのはむしろ前半の基本問題です。問題が難しくなればなるほど、基本的な問題をいかに落とさずに得点できるかが、合否を大きく左右するのです。今のうちに、「基本問題に絶対に足をすくわれないこと」をテーマに、計算や小問をこなしていく必要があります。

広島県公立高校入試選抜Ⅱ分析速報(理科)

□問題・設問構成

問題形式は昨年とかわらず

大問1に地学分野(天気・飽和水蒸気量)、大問2が化学分野(電池)、大問3には物理分野(光と凸レンズ)、大問4に生物分野(遺伝)が入ってきました。天気分野に化学の知識を取り入れたり、グラフや表を読み取って答えたりと、知識に依存しない「目先を変える」問題が多いのが特徴です。

□昨年度との難易度比較

昨年と同等の難易度。知識詰め込みでは太刀打ちできない

難易度自体は大差ありませんが、記述量が昨年より書きにくいものが多く、知識の詰め込みでは「何もできない」と言っても過言ではありません。昨年と同様、20点割れの平均点になる可能性が高いと見ていいでしょう。

□平成30年度入試に向けて“今すぐ行う”対策

実験・観察ノートを作成

4つの大問はいずれも「実験・観察」が提示されて解くタイプの問題です。ただし、その実験が「何の意味があるのか」を考えて解くものが多いです。まずは今まで学んだ実験や観察について、「方法」「結果」「考察」をノートにまとめていつでも目を通せる状況にしておく必要があります。

広島県公立高校入試選抜Ⅱ分析速報(英語)

□問題・設問構成

構成は変わらず4大問。相変わらず記述量が多い

大問1にリスニング、大問2が対話文読解、大問3に長文読解、大問4に「メール返信」の英作文の4題構成と、昨年とあまり変わらない問題構成になりました。大問2には資料が3つあったり、大問3にウェブページの文章が採用されたりと、資料読み取りの能力も同時に問われる問題です。

□昨年度との難易度比較

難易度は昨年よりアップ。平均点が大幅に下がる可能性

長めの英文をしっかり書かせる問題が多くあり、またたくさんの資料が受験生を混乱させる可能性があります。大問4が資料読み取りと解答例の作成、これを英語に直す作業ととにかく大変です。難易度は昨年より上がり。長い文章には部分点がもらえるものの、平均点は大幅に下がる可能性があります。

□平成30年度入試に向けて“今すぐ行う”対策

単語・熟語を覚え直す

リスニングを除く3つの大問がすべて長文問題です。ですから、読むにしても書くにしても、単語や熟語の知識がなければ前に進みません。少なくとも今まで教科書に載っている単語はすべてチェックし、できるだけ覚える努力をしましょう。平行して、塾での文法チェックで長文が読めるようになりますよ。

広島県公立高校入試選抜Ⅱ分析速報(まとめ)

□平成 29 年度の全体的雑感

- ・知識の詰め込みでは勝負にならない。
- ・問題文の分量が多く、また解答を記述させる問題ばかりなので、体力が大事。
- ・切り替えの速さが成功の鍵？

□予想平均点 (50 点満点。5 教科合計 250 点満点)

国語	23 点～24 点 (昨年 25.6 点)
社会	22 点～23 点 (昨年 21.2 点)
数学	23 点～24 点 (昨年 24.8 点)
理科	18 点～19 点 (昨年 19.7 点)
英語	24 点～25 点 (昨年 23.7 点)
5 教科合計	110 点～115 点 (昨年 115.0 点)

昨年と同程度と思われる。

□平成 30 年度入試に向けての注目ポイント

・表現力を問う課題

国語の 250 字作文や、英語の大問 4 の英作文などが典型的な例です。「この状況であなたならどのように考えるか／どのような発言をするか」というタイプの問題が定着しました。また、理科と社会で記述問題が増加し、資料読み取りから自分の意見まで、たくさんのパターンを意識して訓練しなければなりません。

・「現実」との接点

数学の大問 4・5 が典型例です。トンネルの高さの問題や、ロケットの問題といった、いわゆる数学の教科書の中で繰り上げられる数学的な常識ではなく、それを身近な例として問題にするのも、定着してきましたね。

・資料を読み取って解く問題の増加

もはや公立入試問題では、「資料が読み取れないと合格なんて夢のまた夢」という問題構成になりました。数学だけでなく国語や社会、英語にまで資料を見て解く問題が増加しています。手をつけるところは、とにかくここでしょう。

・読む「体力」が必要

小さいことですが、全教科とも「問題文を読む量」が増えています。単純に分量が増えているのがありますが、隅から隅まで読まないで解答にたどり着かない問題が増えています。例えば国語の問題は、設問の中にまた相当量の文章がありますし、理科は最後の設問に「それまでの問題文はほぼリセット」のものが用意されています。

□中学 2 年生、中学 1 年生へ

常に、入試を意識して

上に書いた通り、広島県の入試は知識の活用に重点が置かれています。だからこそ、まず今は始まるまでの基本知識を積み上げる期間に当てましょう。活用問題をしっかり訓練するのは、3 年生になってからです。そのときに、知識の漏れがないように、普段から入試を意識して日々の勉強にあたるべきです。

もう、いまこの瞬間に高校入試は始まっています。
合格するかどうかは、今日この瞬間にかかっているかもしれません。
強い気持ちを持って、毎日の勉強に臨んでください。

IKUEI 個別学院は公立高校入試に強い！

□IKUEI 個別学院はカリキュラムが充実

先生 1 人に対して生徒は 2 人まで。つきっきり個別指導の専門塾です。

希望の日程・時間・コーチを選ぶことができるので、部活動や習い事との両立も可能です。

長年の経験に裏打ちされた確固たる指導法が確立されており、それを生徒のレベルや志望に合わせてカスタマイズ。無理なく受験レベルまで持ち上げることができます。

毎回の指導記録は、個別指導記録簿に記載し、管理しています。

□IKUEI 個別学院は受験情報が充実

英検・漢検の準会場になっており、また各種模擬試験の会場にも指定されています。

正確な実力判定、内申点アップの手助けができます。

また、長年地域に密着しているからこそ手に入る充実した入試情報や最新の学習状況など、受験をする上で欠かせない情報が満載です。

□IKUEI 個別学院はサポートが充実

自習室は校舎が開室していれば、各いつでも無料で利用することができます。広くて静かで、置いてあるテキストは自由に使って勉強することも可能です。

定期テスト前にはテスト対策も実施。普段受けていない教科や開いていない時間帯に、徹底的に対策することができます。塾生にはとても喜ばれているイベントです。

今すぐ IKUEI 個別学院にお問い合わせを！



基礎から受験まで 完全個別指導

IKUEI 個別学院



0120-969-722



ikg@ikuei.co.jp

※ 午後 2 時から午後 10 時まで。日曜日はお休みです。

※ 留守番電話になる場合もございますので、あらかじめご了承ください。